

# 山口県総合教育会議 議事録

1 日 時 平成29年2月23日(木) 9:00~10:00

2 場 所 山口県庁4階 共用第2会議室

3 開 会 (事務局)

## 4 知事挨拶

教育委員の皆様方には、本日は大変お忙しい中、本年度第2回の山口県総合教育会議にお集まりをいただき、厚くお礼を申し上げます。

9月に開催した前回の会議では、平成29年度の「重点取組方針」について御協議をいただき、委員の皆様から貴重な御意見を賜った。これを踏まえて、来年度の当初予算編成を通じ、施策の充実や新たな取組の検討を重ね、昨日発表した予算案に盛り込んだところである。

とりわけ、私が力を入れてきたコミュニティ・スクールについては、今年度、全ての市町立小・中学校での設置を達成しており、今後は、各地域における活動の一層の活発化とレベルアップを図るとともに、現在、モデル的に実施している県立高校と特別支援学校でのコミュニティ・スクールを、来年度からは本格導入し、年次的に拡大していくこととしている。

また、来年の平成30年は、明治改元から150年となる節目の年を迎える。私としては、明治以降、連綿と受け継がれてきた「防長教育」の歴史と伝統を、改めて振り返る絶好の機会でもあると思う。

この「明治150年」に向け、未来を志向する県民の意識や機運を高めていく中で、子どもたちの「志」や「行動力」、そして、郷土への誇りと愛着心をしっかりと育み、さらに、県内への定着や還流につなげていく、そうした一連の取組を進めていくことが大変重要であると考えている。この度の予算では、このような観点にも立って、関連事業の拡充を行っているところである。

来年度における重点的な取組の詳細については、後ほど事務局から説明をさせていただくが、委員の皆様におかれては、事業の実施に当たって考慮すべき事柄や、踏まえるべき最近の教育行政の動きなど、幅広い見地から御協議をいただければと思う。

どうか忌憚のない御意見・御提案を賜るようお願いをする。

## 5 議事概要 (議事進行：知事)

※委員発言：● 事務局説明等：○

### (1) 平成29年度の重点的な取組について

○事務局から別添資料に沿って説明

● (中田委員)

7ページの「(3) 安心・安全な教育環境づくり」の中の「②いじめの未然防止や早期発見、相談・支援体制の充実」について意見を述べたいと思う。

最近でも、愛知県一宮市の中学校で、これは教師の子どもいじめだったのではないかと今のところ報道されているが、学校の対応が少しまずいような感じがあって、新聞でもかなり報道されているが、いじめというのは、一番件数が多いのは、子ども同士のいじめで、これが100%のうち90%を占めているのではないかと思うが、それ以外でも、この新聞報道にあるように、教師の子どもいじめ、あるいはいじめとは言わないが、家庭での子どもの虐待というような、いじめに相当するような事柄がいろんなところで起きていると思う。

これは、別に学校に限らず一般社会でも起きているのが現状であるが、いろんな会社でも起きている問題であって、特別なことではないものと思うが、小学校、中学校、高等学校と

いうものは、将来ある子どもたちを預かっている職場なので、その影響が、その時間、その年代だけに及ぶものではなく、大人になって、社会人になって働くようになってからもずっと影響があるものという研究が最近ではされている。

よって、学校にいる期間だけでなく、生涯にわたって影響があるということが言われているので、これはやはり非常に大事な問題ということであると思う。

この問題は、「重点的な取組」という形でこの7ページに書いてあって、今年度は県立学校においても、法に定める「重大事態」と判断された事案も生じていることもあって、本県においても、これはしっかり取り組まなければならない大事な課題ではないかと考えている。

来年度、この4月以降に行う主な取組等についての概略的な説明が先ほどあったが、このいじめの問題について、来年度は具体的にどういうふうに取り組んでいくのか、事務局に県教委の方もいらっしゃるので、説明をしていただければと思う。

#### ○事務局（学校安全・体育課長）

ただいま中田委員より御質問をいただいた、県教委の来年度の取組等について説明をさせていただきます。

まず初めに、本県の取組の基本的な方針については、まず、「山口県いじめ防止基本方針」に基づき、各学校において設置している「いじめ対策委員会」を中核として、「いじめの未然防止」、「早期発見」、「早期対応」、「重大事態への対応」の四つの視点から、チャレンジプランの活力指標に掲げている「いじめ解消率100%」を目指した取組を進めている。

また、先ほど御発言のあった、いじめ防止対策推進法に基づく「重大事態」については、現在、公正・中立の立場の第三者機関において、慎重に調査・審議を行っているところ。できるだけ早期の最終報告に向け、鋭意、取組を進めてまいりたいと考えている。

来年度の取組については、近年、小学校における問題行動が増加傾向にあることや、中学校入学を境にした不登校等が急増する、いわゆる「中一ギャップ」が見られることから、小学校における体制の強化と、小中9年間を見通した地域ぐるみの教育相談支援体制の整備が必要であると考えている。

特に、心理の専門家であるスクールカウンセラーによる支援がその中心となるが、現状では小学校へのスクールカウンセラーの単独配置は概ね3割であり、それ以外の学校については要請に応じて校区内の中学校からスクールカウンセラーを派遣するという体制となっているところ。

こういった仕組みについて、来年度からは配置を小学校、中学校を含めた中学校区単位に改めることにより、小中連携の配置を進め、中学校はもちろんのこと、全ての小学校においても計画的にスクールカウンセラーによる支援が届く体制を構築することにより、教育相談・支援体制の充実を図ってまいりたいと考えている。

その他、国の事業を活用して不登校児童生徒への支援体制の整備に向けての実践研究やいじめの未然防止等に向けた調査、実践研究にも取り組んでまいりたいと考えている。

#### ●（村岡知事）

今あったいじめの話は、非常に重要な問題であると思っており、今お話があったように県立学校でも「重大事態」が発生していることから、深刻に受け止めているが、中田委員もおっしゃったように、いじめの問題は子どもたちの命や体を危険にさらすというだけではなく、将来にわたって心の面などに影響を及ぼすものであるもので、これは絶対にあってはならないことであると思っている。

今、予算の中でも、いじめの未然防止、早期発見、相談支援体制の整備ということで中身を充実していこうということであるが、県教委の方には是非しっかりと取り組んでいただき

たいと思うし、また、学校の中でのスクールカウンセラーの方々の対応はもちろんであるが、家庭とか地域とか、そういった地域全体でもよく意識をして取り組む必要があるのではないかと考えていて、今コミュニティ・スクールも100%になったが、地域の教育力が年々低下しているのではないかとされている中で、山口県は地域ぐるみで子どもの学び、育ちを育んでいこうという考えができていっているわけなので、それをしっかりと、うまく生かしながらこのいじめの問題に対しよい取組ができればよいと思っている。

私も、浅江中学校などコミュニティ・スクールをいろいろと見させてもらったが、地域の方が普通に学校に入って、子どもたちと色々と話したり、授業の中でも外でも、色々と子どもたちと地域の皆さんとの関係ができていっているという部分、それが学校の中でできているということが、いじめの予防などの面でも大変大きいと思っている。

そういった取組を各地域で、コミュニティ・スクールを使いながらできればよいなと思っているので、このような取組も一層進めていただきたいと考えている。

#### ●（浅原教育長）

この件に関して、私の方からも一言発言させていただきたい。

改めて、いじめというものは絶対あってはならないというふうに本当に考えている。

先ほど事務局からの話もあったが、来年度の予算編成に当たって、小中の9年間を見通した地域ぐるみの支援体制を整備するという観点から、スクールカウンセラーによる教育相談や支援体制の充実を図るといった取組を進めていくということである。

やはり学校は、誰もが安心して通うことができる場でなければならないし、子どもたちが共に成長し合える、そんな場でなければならないと思う。

とくにいじめを受けたお子さん、それからその保護者の方のことを考えると、繰り返すようであるが、いじめは絶対に許されないことであると思うし、万が一、不幸にしてそのようなことが起きた場合には、可能な限り早期の解決を図っていきたいと考えている。

先ほど知事の方からお話があったが、未然防止についてもいろいろと取り組んでいるが、コミュニティ・スクールも100%になっているところであり、普段の声かけとか見守りなど地域の皆様の力も借りながら、学校が地域と一体となった取組によって、こういった問題の未然防止に是非取り組んでまいりたいと考えている。

#### ●（宮部委員）

私も、「安心・安全な教育環境づくり」について述べさせていただきたい。

昨日発表されたが、全国の主要活断層帯について、これまで約100であったものが16ほどプラスとなったところであるが、その中の3つが山口県内のもので、今までも岩国断層帯、菊川断層帯ということで活断層帯の多い地区ではあったが、今回三つプラスということで、ほぼ全県にわたって存在することになった。

地震、災害の少ない山口県というのがこれまでの認識であったところが、箇所が増えたということで、今年の重点目標の中に、熊本地震を例に取って色々と取組があるわけであるが、それについて、まず建物の耐震化を高めるということで、県立学校ではほとんど終わっているが、市町は、統合とか廃校などの問題も含めて進んでいない地域があるので、できるだけ早く進めていただいて、施設の耐震化が本当に100%になるということと、災害は地震だけではないので、最近では地球温暖化によるゲリラ豪雨や、台風がとてつもないところに発生しているということもあって、これも含めた対策として、法面補強であるとか、必要な対策があるかどうかと思う。

県も緊縮財政という中ではあるが、国の補助金なども活用しながら、一步でも進めていただきたいと思っている。

また、それに対するいろいろな防災教育について、100%コミュニティ・スクールが出来て、地域連携教育があるという流れの中で、一部の地区でもやっておられるが、中学生、高校生が幼稚園児を避難させる訓練など、進めていただくとよいと考えている。地域が学校を守るということで、コミュニティ・スクールをうまく使いながら進めていただくとよいと思う。

安全・安心が人間の「もと」であると思うので、そのような取組をしっかりと進めていただきたい。

●（村岡知事）

おっしゃるとおり、耐震の取組が山口県は少し遅れているというか、地震が少ないということで意識が低い面があるのかなとは思いますが、熊本も地震があると思っていないところであるような大規模な災害が発生して、本当にいつどこで起きてもおかしくないし、おっしゃられるように断層も新たに三つ追加されたということもあるけれども、そういう意識の啓発もそうであるし、県も新年度の予算の中で、防災対策は予算の一番上に置いて、体制の強化や耐震化も進めていかなければいけないということで取組もうとしているところである。

市町の学校が全国的にも耐震化が低い状況であるので、教育委員会の方でも色々と促していただいて、また助言等もしていただいているが、引き続き取り組んでいただきたいと思う。

●（石本委員）

少子高齢化が進むこの山口県における課題の一つとして、より強い人材を育成して、県内に定住してもらうということが必要かと思っている。

まず人材育成について、3ページ目にあるように、主体的に学べる力を育ててほしいと思う。主体的に学ぶには、学びの楽しさを知ること、将来の目標をもって学ぶことが大切だと考える。そのためにはよい授業の提供が大切で、小・中学生の頃から職場体験などを通じて様々な職種を知って自分の夢をもつことが大切であると思っている。

また、学力だけが基準ではなく、特技や趣味など、個性を伸ばすことが合っている子どもたちもたくさんいると考える。好きなことで大成できると、幸せで豊かな人生を送ることができると、何より思っている。

よって、自分に何が合っているのか、何がしたいのかを見つけることが、やはり小・中学生の課題ではないかとも思うので、そのためにも、小さい頃から色々な体験が出来るような取組の企画なども望んでいる。

次に定着については、高校まではほとんどのお子さんが地元で進学されると思う。そこで、高校卒業後の対策が大事になってくると思われる。

県外への流出を減らすために、県内大学や就職先の魅力を増やしてアピールすることが大事であると考えている。

福岡や広島といった大都市に囲まれたこの環境を生かして、山口県の暮らしやすさを武器に加えて、県外の有望な学生を山口県に誘致するというのも考えてもよいのかなと思う。

また、難しいとは思いますが、大学の定員増とか、増やしたい職種の就職につながるような学科の増設も一つの方法ではないかと思う。例えば看護とか、福祉とか教育など、県立の大学や私立大学への援助も考えていただけたらいいなと考える。

現に、2007年に宇部フロンティア大学で看護科が増設されているが、今後も県内で進学する定員が増えたり、その先の県内就職へつながる取組となればよいと思う。

最後に、予算の配分について、山口県は教育のための取組は多くなさっているが、全て税金で賄われているものである。

一つ一つの企画をよく見極め、慣習に惑わされず、しっかり評価して、成果につながる企

画に十分かけていただきたい。メリットが少ないものは整理していくことも必要かと思う。限られた予算を有効に使う、山口県民に還元していただきたいと思っている。

●（村岡知事）

非常に財政も厳しいので、限られた予算を有効に活用できるよう、意識をさらに徹底しないといけないと改めて感じた。

いくつか重要なお話があったかと思う。

職場体験のお話は、子どもの時から「何がしたいのか」ということを自分で学ぶ、体験をするということは、とても重要なことであると思うし、そういった方々のお話を聞くといった機会もできるだけ増やせばよいと思うが、そういった意味で、今回JAXAが来たので、JAXAの方も、県内の子どもたちの教育とか宇宙の教育などに色々と協力していただけるということなので、そういったメニューも充実していけるのではないかと考えている。

誘致できたJAXAと、そういった面でも上手に連携できたらよいと思う。

大学などの魅力向上という視点では、「大学リーグやまぐち」を昨年作って、県内の進学とか、その先の県内への定着を目指して各大学で取り組んでおられるが、県内の短大を含め大学が連携してやっという取組を始めることにしたので、このあたりは高校などともうまく連携しなければいけないし、おっしゃられるように県外からも呼び込めるように自分たちの大学の魅力をしっかりと発信をしたりとか、我々もそのお手伝いをしていきたいと思っている。

今、県内進学、就職という部分をもっと力を入れてやらないと、人口減少もそうであるし、企業の方も大変人手不足で、なんとか人材を確保したいということになっているので、そういった意味でもしっかりやっていきたいと思う。

●（佐野委員）

まず、人材の育成について、コミュニティ・スクールは、全国的にもこの先、山口県がどのような展開をされていくのか、期待をされていると感じている。

そういった期待感があると思われるものとして、「やまぐちコミュニティ・スクール推進フェスティバル」においても意見発表をされておられた浅江中学校の伊藤校長先生が、今期より文部科学省の中央教育審議会の委員として参加されるとお聞きしている。

山口県においては、高校、特別支援学校に更にコミュニティ・スクールを拡大されるが、拡大とともにその質についても取組みが注目されてくるものと感じている。

地域教育力日本一を目指すということで、学校が積極的に地域の課題に取り組むことや、生徒が主体的に問題解決の中心となることで、身近な問題や課題に顔を見知った地域の人たちと取り組む姿勢が、子どもたちが自ら課題を見つけて解決していく能力を実感として伸ばすことにつながるのではないかと感じる。この先求められてくる人材の育成につながるものと感じている。

ただ、地域の人たちからは、開かれた学校とどう付き合っていくらよいのか、戸惑いの声も聞かれることがあるので、配置されるコンダクターやコーディネーターにはしっかりと学校と地域をつないでいただければと感じている。

平成の松下村塾づくり事業について、明治維新を成し遂げた先人達を知ること、志とか、行動力の育成を図ることであるが、まず知ることによって子どもたちの心のスイッチを入れることにつながればよいと思う。

150年余りにイギリスに留学した長州ファイブの方々、多くの分野で活躍されて日本の近代化の礎となったと聞いている。現代の若い人たちは内向きな傾向があると聞いているが、急速なグローバル化や、AI、人工知能や、ICT、情報通信技術の拡大が進んでい

る現在において、新たな長州ファイブを送り出していただけるようになればよいと考えている。

JAXAの関係では、私は「宇宙」と聞くとわくわくしてしまうが、子どもたちもそうではないかなと感じている。このような宇宙という未知なる世界へのアプローチや、世界とつながったグローバルな活動、それらを実現するために利用される最先端の技術などというのは、子どもたちのものの考え方や取組、そういったものを身に付けることで、様々な場面で応用ができるものではないかなと感じている。

JAXAのコーポレート・スローガンは「"Explore to Realise"」(エクスプロー・トゥ・リアライズ(実現を目指して探求する))ということなので、子どもたちにもこれを感じてほしいと思っている。

安心・安全な教育環境づくりについて、いじめ解消率100%をめざすということで、相談支援体制の充実を図るとなっているが、やはりある程度の集団規模になると、人と人との摩擦や衝突というものは起きてしまう。いじめという現象が起きてしまうという前提で、逆に、そのような状態を認知、把握して、解消に向かうという展開が非常に重要であると感じている。

スクール・カウンセラーの先生方、全校配置という形であるが、一層専門職の方の配置をいただいて、第三者的な、客観的な視点で子どもたちの状態をしっかり見ていただければと思っている。

法務省の全国中学生人権作文コンテストで、内閣総理大臣賞を受けた「日本のいじめ対策は間違っている」という作文がある。大変ショッキングな内容であるが、内容を見ると、日本ではいじめに対し、当事者への対処的な対応が多いが、学校で、行き過ぎた行動に対する「ストッパー」がないと。周囲に流されず、自分の意見を持ち、かつ他人の意見も尊重するという「ストッパー」が普通に出てくるような能力の育成や雰囲気づくりが大切で、問題意識を持ち、みんなで話しながら解決するという姿勢が大切なのではないかという作文の内容だったと思う。

これから先の道徳教育といったものにも関係してくると思うが、社会に出てからも生涯通じるものだと思うので、しっかり取り組んでいただきたいと感じている。

最後に、社会が大きく変化していく中、教育も変化、対応していくこと。10年、20年、もっと先で子どもたちが困らない教育、よかったと思える教育については、しっかりとした研究や準備、思い切った政策が必要だと感じている。子どもが安心して育てられる地域、しっかりとした教育が行われている場所では、親は安心するし、そういった地域は住みたい、関わってみたいのではないかと感じている。しっかりとした教育投資をこれから先もしていただき、教育県としての力を伸ばしていただければと感じている。

#### ● (村岡知事)

最後におっしゃられた「教育県の取組」は、進めていかなければいけないと感じている。いじめのお話もあったし、人材育成、コミュニティ・スクールのお話もあったが、質を上げていかなければいけないというのはおっしゃるとおりと思う。100%達成の次は質を上げていく。これをコンダクターの皆さんにも頑張ってもらいながら展開されていくとよいなと思うし、この取組みをできるだけ多くの皆様に知ってもらい、コミュニティ・スクールも全県的な会議を開催されて、事例発表などもあるが、成果が分かりやすい指標などで示されると、良さがより伝えやすいのではないかと思う。これは教育委員会の方で苦心されながら考えられていると思うので、また引き続きお願いしたいと思う。

長州ファイブのお話では、せっかく明治維新150年という年であるし、幸い山口にはこ

の明治維新で、また明治になってからも、工業の面など様々な分野で活躍された方が多くいらっしゃる。郷土の先人達に触れるというのは、やはり自分たちにとっても誇りになるし、郷土の先人はこんなに大きな志をもって活躍をしたんだというふうに大いに感化をさせるものだと思うし、そういうタイミングがちょうど今来ているので、是非この機会に、故郷の先人たちの志とか、行動力に学ぶということ、この絶好の機会を逃さずやっ払いこうと考えている。

● (小崎委員)

昨年10月より教育委員を務めさせていただいている。毎回緊張で、身の引き締まる思いをさせてもらっている。

私は、今年度から萩市の方でも統括コーディネーターという役目をいただいております、その関係で、コミュニティ・スクール、地域協育ネットに関わっていく中で思うことを発言させていただく。

先ほどよりお話も出ているが、山口県はコミュニティ・スクールの設置率が100%にはなったが、現場にいて、認知度、理解度というのはまだまだだということを実感している。

特に保護者の方から、コミュニティ・スクールという名前は知っているけれど、「では何をやるの?」といった声をよく聞くし、それがまた「地域協育ネット」となると、なおさらわからないという方も多いと思う。

地域で直接関わっている統括コーディネーターなどがもっと情報を発信していかないといけないなと思うが、県としても言葉は悪いかもしれないが、あの手この手を使って、もっと発信していただきたいと思う。

例えば、現在のテレビの広報番組「はつらつ山口っ子」の「拡大版」や、NHKなどメディアの力をお借りして特集を組んでいただくとか、みんなの目に触れるものとして市報があると思うが、これは全家庭に配られるので、お年寄りから子どもも見ることができる、そういうところにちょっとした紹介記事などがあると皆さんの記憶に残ると思う、萩市にも提案させてもらっている。

また、地域協育ネットに関するパンフレットを作成する準備にかかっている。

ここで、ちょっと知事に質問であるが、先ほどお話もあつたが、浅江中学校や、萩東中学校にも視察に来ていただいているが、視察にはどのぐらい行っておられるのか。

● (村岡知事)

この間、岩国の川下中学校、由宇中学校にも視察に行っている。

話をお聞きする機会はたくさんあって、例えば阿武中学校とか、PTAの方が全員で読み聞かせをなさっているところなど、これはコミュニティ・スクールの視察というよりは、「どこでもトーク」という、私が各地域でやっているが、その中で、その代表の方が発表されたことをお聞きしたりとか、いろんなところでお話を聞く機会がある。

● (小崎委員)

視察を増やしてくれということではないが、是非現場に来られて、生の声を聞いていただきたいと思う。知事や、県の皆さんも来ていただいて、今先生方が何を考えているのか、コミュニティ・スクールに関わっている方がどういうことを思っているのかといったことを直接聞いていただくと、私が聞いていても心に沁みるようなこともあるし、今から取り組まなければならないことがとても実感できる場であると思う。

視察の際には、校長先生がお話されることが多いのかもしれないが、今、萩市では「カフェ・ミーティング」といって、地域のコーディネーターの方たちが15名ぐらい集まって会議をする場があって、本当にざっくばらんな会議なので、皆さんがそれぞれ抱えている課題

など、いろんなことを話される場になっている。そういうところにも足を運んでいただけるとよいなと考えている。

このような会合は萩だけでなく、いろんな地域で実施されていると思うので、お忙しいとは思いますが、いろんなところに行って、見て、聞いていただきたいなと考える。

関わっている大人たちが笑顔で、楽しくやっている姿を見て、子どもたちもきっと笑顔になるのだと思うし、その子どもたちの笑顔を見て、また大人たちも笑顔になる。そのような笑顔の連鎖が、地域協育ネットにもつながっていくものと思うので、また眉間にしわを寄せ取り組む事業ではないとも思うので、私自身もそうであるし、皆さんで楽しくやればよいなと思っている。

●（村岡知事）

「カフェ・ミーティング」というのは、萩のどこかの小学校、中学校で行われている？

●（小崎委員）

私が統括コーディネーターとして関わっている萩東中学校区、そして萩西中学校区、越ヶ浜中学校区には、全部で今中学校が3校、小学校が5校あるが、その各学校に2名ずつ地域コーディネーターがいらっしゃって、その地域コーディネーターが主に地域と学校をつないでおられる。身近に、学校の抱えている課題なども御存じであるし、それを、堅苦しい雰囲気ではなく、お互いが話し合おうという場として、楽しく進めている。

●（村岡知事）

私も一緒にお茶を飲みながら。

●（小崎委員）

是非お越しいただきたいと思っている。

●（村岡知事）

私もいろいろと行ってみる機会を増やしていければと思っているし、おっしゃられるようなPRはしっかりしていかなければいけないと考えている。

以前、県の番組でもコミュニティ・スクールの話は確かやっていたが、ただし視聴率があまりよくなかったなと思うが、よく分からないけど。

あとは、NHKにも、番組で取り上げてもらえるよう売り込みにもいったこともあったと思う。ただ、やはりちょっとわかりづらいところはあるのかもしれない。取組自体はとても良いものであるので、子どもたちも、学校も地域も家庭も、全員にとってうまくいけばよい仕組みだと思うので、仕組み自体と予算をもっとPRできれば、これまでの取組を更に伸ばしていこうという地域も増えてくるのではないかと考えている。とても重要なことだと思っている。

●（浅原教育長）

まずは平成29年度の予算編成に当たり、知事には大変厳しい財政の中で、本県の将来を担う子どもたちの教育に向けて予算を確保していただいた。本当に心からお礼を申し上げます。

事務局の説明と重なるところもあるが、少しお話をさせていただく。

まず、県立学校へのコミュニティ・スクールの拡充について、知事の御挨拶にもあったが、小・中学校においてはコミュニティ・スクールはもう100%となったということで、今後はその内容の質の充実、どのように充実を図っていくか、これが一番大きな問題であると思っているし、加えて、現在一部の高等学校3校と特別支援学校2校に導入しているコミュニティ・スクールの順次拡大をしていきたいと考えている。

これは、高校生にとっても、生まれ育った地域を大切にしたいという気持ちの醸成など、本当に若



者が、高校生が将来県内に住みたいと、あるいは県内に帰ってきたいと、そういう思いにも資するものであると考えている。

高校生については、高校に本当にコミュニティ・スクールが必要なのかという議論も実はあったわけであるが、しかし高校生の力というのは、大人が考える以上に、本当に大きなものがあると考えている。

地域ごとの様々な課題があるが、そういった地域の課題に対し、学校、学科の特色や専門性などを生かして、地元はもちろんのこと、幅広く県内の大学、企業等と連携して、地域の活性化のためにはどうすればよいかといった方策の検討であるとか、地元の特産品を生かした商品開発等といった積極的な取組も、大いに期待しているところである。是非、高校の方でコミュニティ・スクールを拡充していきたいと思っておるところ。

2点目は、高校生の県内就職、産業人材の育成について、御案内のとおり人口が減少する中、大変厳しい状況が続いているが、特に若者の県外流出、これは高校生も大学生も同じであろうと思うが、本当に大きな課題であろうと考えている。先ほど事務局から説明があったのであまり詳しくは申し上げないが、高校1年生、2年生の早い段階から県内の企業に係る情報提供をしっかりと行い、早い段階から高校生が自分の進路について考えて、一人でも多くの高校生が県内就職に向けて積極的に取り組んでいく。そういうふうにしていきたいと思っておるところである。

若者が県内に帰ってきて働きたいと、その環境づくりにも、是非御協力をいただきたいと考えている。

最後にJAXAの関係は、JAXAの拠点ができたとすることは、宇宙に向けて、子どもたちや大人にも大きな夢が広がる、素晴らしいことであると思っている。

子どもたちに山口に居ながら、宇宙を感じさせて、将来の本県を担うイノベーション人材の育成となれるよう、しっかりとサポートしていきたいと考えている。是非、よろしく願いをする。

#### ●（村岡知事）

高校コミスクについては、全国的にもまだほとんど取組が進んでいないところだと思うので、モデルとなるようによい取組みができたらいいと思うし、若者の県外流出が激しいので、県の人口減少を食い止める上では、高校生が県内に就職するなり、進学することを促していかなければならないと考えている。

今回、教育委員会の方でも、高校の中での県内就職の取組というものを色々と充実をしてもらおうが、我々県内の企業の方も、本当に今人が足りない中で、多くの人を確保したいという思いがあるので、よく企業と学校を繋げるようにしていければと思っている。

JAXAの方も、本当に夢のある施設が誘致できて、教育の場面でも色々と手伝ってもらえるということなので、この件もしっかりと関わっていきながら、こういった、子どもたちの宇宙教育、子どもたちの夢がひろがる教育ができるようにしていきたいと考えている。

#### ●（中田委員）

大学に長く勤めていて考えるに、若い人の特徴として、どうしても、やる気はあっても経験は少ないということかと考える。

私も山口に来て33年ほど経過しようとしているが、その間に、若者の傾向というものが少しずつ変わってきているのではないかと感じており、それは、非常に個人主義的になっているのではないかと、他の人のことをあまり考えないということかと思う。この典型が、年2回、大学で一斉清掃というものを行うが、私が山口に来た当時はほとんどの学生が参加していたものの、今は経済学部はたぶん1名しか出ていない。学生は1,600人程度いるが、

出てくださいと言うだけでは出てこない。単位にしますとか、義務ですと言わないと、任意にすると出てこない。このように、学生の気質が変わってきているということを感じている。

ここで、そういう若い人が教員にもなっているということも、やはりよく知らなければいけないということではないかと思っている。

教員の場合は、就職したと同時に一人前としてクラスを持ったりするという可能性もあるわけで、一般社会では準備段階、研修段階というものがかなりの年数あると思うが、教員の場合は、就職後すぐにベテランの教員と同じように、子どもに接することになるということについて、もう少し研修の制度であるとか、いきなり重大な役割を任せないとか、人員の問題もあるとは思いますが、そのあたりを少し考えなければいけないのではないかと考える。

●（村岡知事）

深刻な問題ですね。何とかしていただきたいと思います。

## （２）その他

●（村岡知事）

本日は、平成29年度の重点的な取組について、貴重な御意見を賜り、感謝を申し上げます。

昨日発表した来年度の当初予算は、大変厳しい予算編成状況の中で、いろいろ苦慮したわけですが、そうした中でも、教育分野の予算については、これまでこの会議で頂戴した御意見を反映し、「重点取組方針」に沿って、まとめることができたものと思っている。

本日、新たにいただいた御意見も踏まえながら、関連する施策をしっかりと推進し、目に見える成果を上げることができるよう、取り組んでまいりたいと考えているし、教育委員会におかれても、引き続き、積極的な取組と効果的な事業実施を図っていただくよう、お願いしたいと思う。

次回は、来年度における事業の実施状況等を確認しながら、今後の取組方針について協議をさせていただくこととして、9月頃に会議の場を設けたいと考えている。

引き続き、皆様の御協力を賜りますようお願い申し上げ、まとめの挨拶とさせていただきます。

## 6 閉会（事務局）